

子どもとともにつくる授業 ～すべての子どもが学習の面白さを感じられる授業づくり～

指定校1年次 千曲市立上山田小学校 木下 靖之, 山崎 裕幸

(1) 本年度のNIE活動の概要

本校は千曲市南部に位置する、各学年単級・全校児童155名の小規模な小学校である。NIE研究指定校1年目を迎えるにあたり、前年度末に学年ごとで授業に新聞を活用できる学習内容を検討して指導計画に印をつけることからスタートした。新年度当初にも新しい職員に指導計画を引き継いで確認。1学期末には各学年の実践状況を振り返り、2学期につなげた。新聞を活用した学習について、本校の職員室を見渡すと、新聞作りなどを積極的に行う教員がいる半面、授業でニュースを紹介した程度や未経験の教員が多い印象だった。この機会を全校的に活用してもらえよう、年度当初に県NIE推進協議会の担当者を招いて職員講習会を開催し、NIEへの理解を高めた。

(2) NIE活動の狙い(育てたい力)

本校では、教育理念「気づき、ねばり、思いやり」の実現に向け、学校研究テーマ「すべての子どもが学習の面白さを感じられる授業づくり」の柱の一つとして、以下の3つの力を育てることを目指し、NIE活動を推進してきた。

① 情報活用能力と社会への関心

日常的に新聞に触れる環境を通じ、新聞の情報の中から必要な情報を選択・整理し、社会で起きている出来事に関心を持つ態度を養う。

② 自分事として捉える思考力

「社会の出来事」を自分たちの生活や地域課題と結びつけ、「自分に何ができるか」を多角的な視点から問い直す力を育む。

③ 未知への探究心と共有する力

新聞を通じて未知の世界に触れる楽しさを味わい、得た情報や自分の考えを他者と共有することで、自己・他者・社会への理解を深める。

(3) 公開授業以外のNIEの取り組みの状況

①新聞に親しむ工夫

児童が新聞に親しめるように工夫した。昇降口前に閲覧コーナーを設置して新聞各紙を並べた。折に触れて新聞記事や新聞の読み方を紹介することで、新聞に興味を持ち、触れる機会を増やすことができた。児童の発達段階は学年ごとに異なるので、低学年でも新聞に親しめるように、新聞を使った工作や文字・数字探しなど、取り組みやすい学習活動を行った。

②NIE職員研修

年度当初に、県新聞活用教育コーディネーターや推進協議会事務局の方を招いて職員研修会を実施し、新聞の効果的な活用方法などについて学んだ。職員間でNIEへの共通認識を持ち、本年度の活動をスタートすることができた。

③新聞コーナーの設置

高学年児童玄関前に、自由に新聞に触れられる新聞閲覧コーナーを設置した。職員が学級

活動や授業で新聞記事やおすすめ記事を紹介したり、定期的にクイズを出題したりすることで、児童の興味・関心を高め、新聞を閲覧する児童が増えてきた。

④お昼の放送と新聞紹介

お昼の校内放送で「今日のニュース」コーナーを設け、当日の新聞一面の記事を全校に紹介してきた。

(放送内容)・見出しの紹介 ・リード文などから新聞記事の紹介 ・簡単な感想の発表

また、各学級でも折に触れて新聞記事を紹介することで、児童の会話に新聞記事の内容が登場し、新聞コーナーに足を運ぶ児童が増えるなど、新聞への関心を高めることにつながってきている。

⑤学年ごとの実践

① 3年生 音楽「手拍子とリズム」 創作リズム演奏 から

新聞紙を使ってどんな音が出せるかを試し合った後、自分が作った4分の4拍子4小節のリズムを新聞紙の音で表現した。また、そのリズムを他の友だちのリズムと合わせて演奏した。

新聞紙を少しずつ破る音でリズムを表現したり、長い棒状に丸めて椅子の背を叩く音で表現したりと、音色にも注目して表現することができたので、学習の幅が広がった。また、自然と体の動きがダイナミックになるということもあり、のびのびと楽しく活動することができた。

② 1年生 国語「かたかなをかこう」 から

1年生で初めて習った「かたかな」を新聞から見つけだして、書き取りをする授業を行った。身近なところにたくさんのかたかながあることがわかった。

③ 2年生 国語「かたかなで書くことば」 から

かたかなで書く言葉にはどんなものがあるかという発問から、「どんな言葉をかたかなで書くのか知ろう」というめあてで、子ども新聞からかたかな言葉を探し、付箋に1つずつ書き出した。また、書き出した付箋を、「動物の鳴き声」「いろいろなものの音」

「外国からきた言葉」「外国の国・土地・人の名前」の四観点で分類をした。

自分で新聞を選び、比較的簡単な内容ということや、かたかなを見つける活動だったので、積極的に探していた。動物の鳴き声やいろいろなものの音については、新聞だと少し弱かったので、できるだけ漫画のある新聞を探したが、ほかの大きな記事のかたかなに目が行ってしまい、出てこなかった。

④ 2年生 生活「ミニクリスマスツリーを作ろう」 から

新聞の折りの部分を下にして、6枚重ねて台形になるように斜めに切った。さらに細かく切り込みを入れてから筒状に丸めた。切り込んだ部分を外に折り曲げ、枝のようにした。LEDキャンドルのスタンドにさし、飾りつけをした。外部講師に来ていただいて、新聞紙工作ができた。



5 4年生 信濃毎日新聞社の出前授業 から

信濃毎日新聞社の出前授業で、社会見学での「取材の仕方」や「新聞のかき方」を学習して、実際の社会見学では、自分の疑問などを質問し、学んだことを新聞にまとめた。

6 5年生 理科 天気の変化(2) から

台風の進路(2019年の台風19号の進路と被害について)「シンマイ EGG」で印刷した当時(台風19号の被害を伝える)の新聞を読み、台風の進路と被害について調べる学習を行い、グループごとに発表を行った。



7 6年生 総合的な学習の時間 から

「新聞記事から人の生き方を学ぼう」ではキャリア教育と関連新聞を読んで、気になった人を探して、以下の3点でまとめ、クラスで紹介をした。記事を共有するためにロイロノートの提出箱を使った。

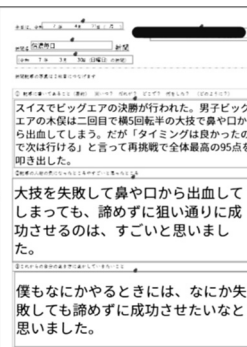
①記事に書いてあること(要約)

※いつ?だれが?どこで?

何をした?(どのように?)

②記事の人物の気になったところやすごいと思ったところ

③これからの自分の生き方に生かしていきたいこと



8 特別支援学級 新聞紙から紙すき から

新聞紙をシュレッダーで細かくし、どろどろに溶かしてから紙すきを行い、再生紙でポチ袋をつくる活動を行った。

新聞を再生し、紙すきを体験することができた。



(4) 公開授業などの活動内容

1. 第4学年 社会 単元名 「風水害からくらしを守る」

2. 単元の目標

ア 自然災害からくらしを守る活動について、過去の自然災害や関係機関のはたらきを理解する。新聞や映像を見たり、災害を体験した方や市役所の方の話を聞いたりして、災害から人々を守る活動について理解する。

イ 災害の被害を受けた人々の思いや関係機関のはたらきを考え、表現する。地域で起こり得る被害を想定し、自分たちにできることを考え、表現する。

ウ 普段から災害に備え、確実な避難の方法を知り、日々の生活の中で防災意識をもって行動する態度を育てる。

3. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などについて、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、災害から人々を守る活動を理解している。	①過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、問いを見いだし、災害から人々を守る活動について考え、表現している。	①自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表や地図、文などにまとめ、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解している。	②地域の関係機関の人々の働きを関連付け、災害から人々を守る活動について考えたり、地域で起こり得る災害を想定し、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりして表現している。	②学習したことを基に地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることを考えようとしている。

4. 本時の主眼

2019年台風19号による千曲川氾濫により上山田地区でも多くの被害が出たり、ハザードマップを見て命の危険性を感じたりした子どもたちが、風水害が起きたときに県や千曲市の関係機関が地域住民に対してどのように行動したのかを調べる場面で、災害前後の新聞記事から日付や県・市の関係機関がとった行動をまとめることを通して、被害が起きる前や直後に関係機関が人々を助ける行動をしたことがわかる。

5. 本時の位置

前時：上山田地区のハザードマップを見て、自分の地域の被害想定を確認した。

次時：台風19号災害に対して千曲市役所の方々の対応を聞く。

6. 指導上の留意点

- ・どの児童も新聞をすぐに確認できるようにロイロノートにピックアップしたものをまとめておく。
- ・写真が載っている新聞記事を選び、児童が状況をイメージしやすい資料にする。
- ・新聞記事の読み取る焦点を絞って提示し、読み取りやすくする。

7. 本時の展開

	○学習活動 ・予想される子どもの反応	教師の支援 【評価】	時間
導入	○上山田地区の被害を見て、感じたことを振り返る。 ・上山田地区も氾濫した水が来る可能性がある。 ・上山田地区には避難所になるところが40か所ある。 ・命の危険が迫っているとき、どうやって逃げればいいのか。	○自分たちで作った地図やハザードマップを見て、被害の大きさや危険性を振り返る。	10

	<p>学習問題：もし、自分や家族の命があぶないとき、だれか助けてくれるのだろうか。</p> <p>○学習問題に対する予想を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所でだれかが食べ物や毛布をくれる。 ・消防や警察の人が救助してくれる。 	<p>○今までの体験や見たこと・聞いたことをもとにして予想を試してみる。</p>	
展 開	<p>○新聞の記事の写真から日付を読み取り、時系列順に並べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風が来る前に避難所ができています。 ・氾濫したその日から人を助けている。 ・3日～4日後には堤防の工事が始まっている。 <p>○新聞の記事から災害が起きたときの人々の行動を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の職員の方が避難所を作って、避難している人たちに非常食を配っている。 ・車いすの人が段ボールベッドのある避難所に避難している。 ・警察官がドローンを使って行方不明者を探している。 ・消防隊員の人がボートで救助している。 ・自衛隊の人が行方不明の人を捜索している。 ・たくさんのショベルカーが来て、堤防を作り直そうとしている。 <p>○時系列順に並べて気づいたことやわかったことを記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12日→台風が来る前に避難所ができた。 ・13日→すぐに消防の人が救助している。 ・14日～17日→何日か後も警察や自衛隊の人が行方不明の人を探している。 <p>まとめ：私たちの命が危ないとき、被害が起きる前から避難所を作ったり、被害があつてすぐに消防や警察の人などが助ける行動をしたりした。</p>	<p>○グループで話し合いながら並べていく。</p> <p>○事前に新聞記事をピックアップしておく。</p> <p>○並び替えた後に写真からどんな行動を起こしているか付け加える。</p> <p>○グループで話し合つて分担しながら読み取っていく。</p> <p>○できた図を全体で共有して気づいたことを聞く。</p>	25
ま と め	<p>○感想や疑問に思ったことを記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風が来る前に避難所ができていたけど、ブルーシートや毛布は誰が準備しているのか気になった。 ・大変な時でも、消防の人が助けていてすごいと思った。 ・たくさんのショベルカーはどこから来ているのか気になった。 ・非常食はどこに置いてあるのだろう。 ・上山田小学校も避難所になっているとあつたけど、避難所にどうやってなるのだろう。 	<p>○ロイロノートに振り返りを記入し、全体で共有する。</p> <p>評価：新聞の記事の内容を読み取つてまとめ、関係機関が行動を起こしていることがわかる。</p>	10

8. 児童の反応とその後の活動（公開授業を参観された先生方より）

- ・社会科の学習でありながら、国語科的な視点や要素がたくさんあった。国語の「読む」「情報を得る」に関する単元は4年生では「パンフレットを読もう」→5年生で「新聞を読もう」という流れになっており、5年生でも新聞の読み方は難しく、いつ、どこで、誰が等をリード文から読み取るのが難しい。今日は新聞の中の写真の近くにあるコメントに注目して内容を読み取らせたことは、4年生の段階でちょうどよい方法だった。
- ・新聞記事を提示しながら、「いつ」「だれが」「どのような行動」に着目させて学習を進めることは、子どもたちが考えやすいものとなっていたと思う。写真脇の文章を手掛かりにグループごと一緒に考える姿がたくさんみられ、地域の関係機関の災害に対する備えや諸行動について理解できるきっかけとなっていたと思う。もう少し記事の本文を友だちと読み合ったり、写真に写された前後の出来事について話し合ったりする段階があれば、もっとダイナミックなやりとり（予想や願い）が生まれたのではないかと感じた。

（5）1年間取り組んだ成果と課題

NIE研究指定校の1年目として、全校体制で新聞を活用した学習を展開した。日常生活で新聞に触れる機会が少ない現代の子どもたちにとって、写真、見出し、グラフなどが豊富に含まれる新聞は、社会への興味を引く優れた教材となった。

【成果】

① 日常的な関心の向上

昇降口の閲覧コーナー設置やお昼の放送「今日のニュース」により、登校時に新聞に目を通したり、社会の出来事を話題にしたりする児童が着実に増加した。

② 発達段階に応じた活用

低学年での「かたかな探し」や新聞工作、高学年での台風被害をテーマにした社会科・理科の分析など、学年に応じたステップで新聞に親しむことができた。

③ 「自分事」としての思考

6年生のキャリア教育や4年生の防災学習を通じ、記事から「人の生き方」を学び、地域の被害を想定して「自分に何ができるか」を問い直す姿勢が見られた。

【課題と次年度への展望】

① 環境の「質」の向上

新聞を置く段階から一歩進め、クイズの出題や注目記事の紹介など、思わず手に取りたくなる仕掛けをさらに強化し、日常化（当たり前活動）を目指す。

② 計画的なカリキュラム化

単発の実践に留めず、各教科の指導計画に「新聞に親しむ（低学年）」から「新聞を活用して考えを深める（中高学年）」という系統性を明確に位置づける。

③ 読解スキルの支援

リード文から要点を読み取ることが難しい児童に対し、写真や図解、ICT（ロイロノート）を効果的に活用した視覚的な支援を継続する。